

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--------------------------------------|---|---|-------------------|---|
| 国語・国語総合 (現代文分野) | 1 学年 | 3 / 5 | 新編 国語総合 (東京書籍) | 新編国語総合学習課題ノート(東京書籍) 基本の現代文(尚文出版) 漢字ボックス(浜島書店) |
| 科目の概要と目標 | 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 随想 1 「ルリボシカミ キリの青」 | <ul style="list-style-type: none"> 随想独特の表現の工夫を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の意味を的確に理解できる。 筆者のものの見方や考え方を理解できる。 | | |
| 小説 1 「とんかつ」 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の構成をとらえて概要を把握し物語の展開を理解する。 登場人物の心情の変化を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の展開を理解することができる。 登場人物の心情の変化を理解できる。 | | |
| 評論 1 「未来をつくる想像力」 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の論理の組み立てを理解する。 筆者の主張を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 評論における筆者の論理の組み立てを理解できる。 筆者の主張を理解できる。 | | |
| 詩 「空をかっいで」 「二十億年の孤独」 「冬が来た」 | <ul style="list-style-type: none"> 三編の詩を読み比べ、それぞれの詩や詩人の特徴を理解し主題を読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> 詩の修辞技巧やその効果を理解することができる。 主題を読み取り理解を深めることができる。 | | |
| 評論 1 「美しさの発見」 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の論理の組み立てを理解する。 筆者の主張を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 評論における筆者の論理の組み立てを理解できる。 筆者の主張を理解できる。 | | |
| 小説 2 「羅生門」 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の構成をとらえて概要を把握し物語の展開を理解する。 登場人物の心情の変化を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の展開を理解できる。 登場人物の心情の変化を理解できる。 | | |
| 随想 2 「りんごのほっぺ」 | <ul style="list-style-type: none"> 随想独特の表現の工夫を理解する。 筆者の心情の変化を表現に即して理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 語句の意味を的確に理解できる。 筆者の体験から生まれたものの見方や感じ方、心情が理解できる。 | | |
| 話す聞く 「討論する」 | <ul style="list-style-type: none"> 論理的な思考の組み立て方を理解し議論の進め方の基礎を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 論証に基づいて主張できるようにする。 話す・聞く態度を意識し活動させる。 | | |
| 小説 3 「沖縄の手記から」 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の構成をとらえて概要を把握し物語の展開を理解する。 登場人物の心情の変化を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 物語の展開を理解できる。 登場人物の心情の変化を理解できる。 | | |
| 評論 2 「真の自立とは」 | <ul style="list-style-type: none"> 筆者の論理の組み立てを理解する。 筆者の主張を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 評論における筆者の論理の組み立てを理解できる。 筆者の主張を理解できる。 | | |
| 書く 「実用文について考える」 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を文章にまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を論理的に文章にまとめることができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|---|--|-------------------|--|
| 国語・国語総合 (古典分野) | 1学年 | 2 / 5 | 新編 国語総合 (東京書籍) | 新編国語総合学習課題ノート(東京書籍) 古典文法クリアノート(尚文出版) マスター古文①(京都書房) |
| 科目の概要と目標 | 国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 古文入門 「古文のしるべ①」 「児のそら寝」 「古文に親しむ」 「用光と白波」 「古文のしるべ②」 「絵仏師良秀」 「古文のしるべ③」 | <ul style="list-style-type: none"> 古文の仮名遣いに注意しながら音読する。 古語の意味や省略されている語を考えながら現代語訳を考える。 良秀や他の登場人物の心情を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに正しく直すことができる。 歴史的仮名遣いを理解し、音読と本文書写が正確にできる。 古語辞典の使い方を理解し、口語訳できる。 古語辞典を使って、口語訳できる。 用言の活用の種類、活用形を理解することができる。 | | |
| 漢文入門 「訓読の基本」 「訓読」「格言」 「再読文字」 | <ul style="list-style-type: none"> 漢文の特徴や基本構造を理解する。 格言の内容を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 音読と訓読文書写が正確にできる。 漢和辞典の使い方を理解し、口語訳できる。 格言について理解することができる。 | | |
| 「故事三編」 | <ul style="list-style-type: none"> 漢文の訓読、句法を理解する。 故事成語を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢文の特徴や基本構造を理解することができる。 返読文字、置き字、再読文字について理解できる。 故事成語の成り立ちと意味を理解することができる。 | | |
| 随筆 「徒然草」 「枕草子」 「古文のしるべ④」 | <ul style="list-style-type: none"> 作者のものの見方や感じ方について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 作者の考えが書かれている部分に注意して読むことができる。 助動詞、助詞の意味、訳などを理解できる。 | | |
| 唐詩 「唐詩―八首」 「漢文の窓②」 | <ul style="list-style-type: none"> 漢詩の訓読、きまりを理解する。 漢詩に込められた作者の心情を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢詩を訓読し、口語訳することができる。 漢詩独特のリズムを味わい、作者の心情について理解することができる。 理解した詩の内容を、自分の言葉で訳詞として表現できる。 | | |
| 詩歌 「折々のうた」 「古文のしるべ⑤」 | <ul style="list-style-type: none"> 短歌、俳句それぞれの形式やリズムを意識して音読する。 古典と現代の歌を読み比べる。 | <ul style="list-style-type: none"> 歌や句に込められた心情を理解できる。 古典短歌の基本的な修辞技法を理解できる。 | | |
| 論語 「論語―八章」 「漢文の窓③」 | <ul style="list-style-type: none"> 孔子の学問・人間 政治の在り方についての考えをとらえる。 | <ul style="list-style-type: none"> 再読文字の意味、用法、漢文の句法を理解できる。 『論語』が出典となった四字熟語の意味を理解できる。 孔子の思想について理解を深める。 | | |
| 史話 「史話―三編」 | <ul style="list-style-type: none"> 文脈を整理して読み進める。 登場人物の取った行動を捉える。 | <ul style="list-style-type: none"> 話の展開に即して内容を理解できる。 | | |
| 物語 「伊勢物語」 「平家物語」 「古文のしるべ⑥」 | <ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いに注意して、古文独特の表現法を理解する。 場面の状況や話の展開を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> 古語の意味に注意し、場面の状況や話の展開を正しくイメージすることができる。 物語の特性を理解し、平安貴族や武士の生活や感性について理解することができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--------------|--|--|-------------------|------------------------------|
| 地理歴史・世界史A | 2学年 | 2 | 明解 世界史A (帝国書院) | 明解 世界史図説 エスカリエ 九訂版 (帝国書院) |
| 科目の概要と目標 | 近現代史を中心とする世界の歴史をわが国の歴史と関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を養い、国際的に生きる日本人都市の自覚と資質を養う。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 1部 諸地域世界と交流圏 | 序人類のはじまり 1 東アジア世界 2 南アジア世界 3 東南アジア世界 4 イスラーム世界 5 ヨーロッパ世界 6 南北アメリカ 7 ユーラシアの交流圏 | 人類の登場により地域ごとに文明が形づくられていく過程を理解する。 各地域の自然環境・政治制度・宗教・国際関係などを通して各世界の特質を理解する。 オリエント文明・イラン文明を理解し、イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、イスラーム世界の特質を理解する。 ヨーロッパ世界がギリシア・ローマ古代文明とキリスト教の一体化によって形成されたことを理解する。 新大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。 諸地域世界の交流の深まりを理解する。 | | |
| 2部 一体化に向かう世界 | 1 繁栄するアジア 2 大航海時代を迎えるヨーロッパ 3 ヨーロッパとアメリカの諸革命 4 自由主義・ナショナリズムの進展 5 アジア諸国の動揺 6 東アジアの大変動 | 黄金時代を迎えていたアジアの特質を理解し、ヨーロッパ各国の海外進出はルネサンス・宗教改革などが影響したことを理解する。 3大市民革命・産業革命後、主権国家体制が形成された過程を理解する。 19世紀の転換点である1848年を節目に自由主義と国民主義の進展したヨーロッパ社会の特質を理解する。 世界の一体化によりアジア諸国の植民地化や従属化の過程を理解する。 | | |
| 3部 現代の世界と日本 | 1 現代世界の芽ばえ 2 第一次世界大戦がもたらしたもの 3 “民族自決”を求めて 4 経済危機から第二次世界大戦へ 5 冷たい戦争の時代 6 現在に続く世界の動き | 第2次産業革命の進行により近代社会の基礎が形成されたことを理解する。 “民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。 2つの世界大戦の原因や影響、平和の意義を考察する。 冷戦が現在の地域紛争に影響を与えていることを理解する。 | | |
| 未来への第1章 | ともに生きる世界をめざして | 山積している地球規模の問題が共生の精神で解決していかなければならないことの大切さを理解する。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---------------|--|---|--------------------|-----------------------------|
| 地理・歴史 日本史B | 2年 | 2 | 日本史B 新訂版 (実教出版) | 新詳日本史(浜島書店) 日本史用語集(山川出版) |
| 科目の概要と目標 | 1 日本史への興味・関心を高め、意欲的に授業に取り組む態度を育てる。 2 日本史の基本的な事象・事柄を理解し、歴史の見方・考え方を養い、日本の未来のあるべき姿を考える。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 日本文化の黎明 | <ul style="list-style-type: none"> 原始社会の生活と文化 農耕の普及と社会の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 採集経済社会としての旧石器時代や縄文時代を遺跡や遺物などから考えることができる。 弥生時代に入って生産経済の開始が社会にどのような変化をもたらしたかを遺跡・遺物などをとおして考えることができる。 | | |
| 古代国家の形成と東アジア | <ul style="list-style-type: none"> 国家形成と東アジア文化 推古朝の政治と飛鳥文化 律令体制の成立 白鳳文化 奈良時代の政治 天平文化 | <ul style="list-style-type: none"> 中国や朝鮮などの東アジア諸国の動向が日本国内での統一国家形成の要因となったことを理解できる。 加羅の消滅、地方豪族の反乱などによるヤマト政権の動揺にに対処するための推古朝の政治であったことを理解できる。 律令国家体制の仕組みを史資料をとおして知ることができる。 聖武治世下を中心として幾多の政争や疫病・天災の多発による社会不安解消のための国家鎮護の政策を理解することができる。 鎮護国家思想に基づく南都仏教の特色や仏教芸術、学問などの基本的知識を知ることができる。 | | |
| 古代国家の推移と社会の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 平安初期の政治 弘仁貞観文化 撰関政治の確立 国風文化の形成 荘園の発達と武士の台頭 院政と平氏政権 平安末期の文化 | <ul style="list-style-type: none"> 桓武、嵯峨朝の律令体制再建策を考えることができる。 密教の登場背景と密教美術の特色を理解することができる。 他氏排斥や外戚政策による藤原北家の権力掌握の経緯を知ることができる。 国風文化の特質を仮名文字の普及や浄土教の発達などから考えることができる。 荘園の成立・発展、国衙領の形成などの土地の私領化による古代国家の解体を武士の台頭による貴族社会の衰退と合わせて理解することができる。 | | |
| 武家政権の成立 | <ul style="list-style-type: none"> 鎌倉幕府の成立と武家社会 執権政治の展開と農村の動き 鎌倉時代の文化 蒙古襲来と鎌倉幕府の滅亡 | <ul style="list-style-type: none"> 武家政権の成立過程や公武二元的支配などの特質について、幕府と朝廷との関係を念頭において理解できる。 承久の乱を中心に北条氏による執権政治の仕組みと、地頭の進出による土地の武一元支配の確立を理解できる。 武士や庶民のニーズから鎌倉新仏教が誕生したことを理解し合わせて庶民も文化受容・形成の一翼を担う文化が成立したことを考えることができる。 蒙古襲来や貨幣経済の浸透などによる御家人の困窮化への幕府の無策が幕府離れを加速させて幕府の滅亡へ繋がることを理解できる。 | | |
| 武家政権の展開と社会の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 南北朝の争乱と室町幕府 社会の変化と民衆の成長 東アジアと日本 室町時代の文化 戦国の争乱とヨーロッパ人の来航 | <ul style="list-style-type: none"> 建武の新政の内容と限界を考えることができる。 守護領国制に見られる守護大名の強大化と幕府の対応を知ることができる。 農業の発達を要因とする惣の形成に見られる農民の台頭が一揆を起こすまでになることを考えることができる。 東アジア世界との交流の変化を通じて中世社会の多様な展開を理解する 北山文化、東山文化、戦国期の文化の特質や形成の主体などを理解することができる。 応仁の乱後の下剋上社会の特徴と戦国大名の分国支配の内容を史料をとおして知ることができる。 鉄砲やキリスト教の影響を考えることができる。 | | |
| 織豊政権 | <ul style="list-style-type: none"> 織豊政権の成立 桃山文化 | <ul style="list-style-type: none"> 織田信長、豊臣秀吉の天下統一過程や事業の内容を史料を通じて理解できる。 城の文化と言われる桃山文化の特色を庶民文芸の発展などと合わせて知ることができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------------|---|--|----------------|-----------------------------|
| 地理・歴史 日本史B | 3年 | 2 | 日本史B (実教出版) | 新詳日本史(浜島書店) 日本史用語集(山川出版) |
| 科目の概要と目標 | 1 日本史への興味・関心を高め、意欲的に授業に取り組む態度を育てる。 2 日本史の基本的な事象・事柄を理解し、歴史の見方・考え方を養い、日本の未来のあるべき姿を考える。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 幕藩体制の成立と鎖国 | <ul style="list-style-type: none"> 幕府の統治機構 大名、朝廷統制 農民統制と税負担 身分統制と特色 初期の外交と鎖国 | <ul style="list-style-type: none"> 徳川幕府の実態を政治～経済～軍事～外交面での具体的政策を学ぶことによって理解することができる。 | | |
| 幕藩体制の展開と元禄文化 | <ul style="list-style-type: none"> 文治主義政治 諸産業の発展 元禄文化 | <ul style="list-style-type: none"> 武断主義から文治主義への転換の背景を理解できる。 町人文化である元禄文化の特色を考えることができる。 | | |
| 幕藩体制の動揺と化政文化 | <ul style="list-style-type: none"> 享保の改革と田沼政治、寛政の改革 列強の接近と対策 社会の動揺と天保の改革 化政文化 | <ul style="list-style-type: none"> 幕藩体制の矛盾の表面化による体制の弱体化への対応としての幕政改革を考えることができる。 天保の改革の内容と限界を理解することができる。 洋学の台頭と尊皇思想、経世学の隆盛を学ぶことで化政文化の特色を考えることができる。 | | |
| 開国と明治維新 | <ul style="list-style-type: none"> 開国とその影響 幕末の政治社会の混乱 新政府の発足と近代化への道 | <ul style="list-style-type: none"> 国際社会のパワーバランスによる欧米列強の来航によつての鎖国政策の崩壊を知ることができる。 開国と対外貿易開始による影響が幕府滅亡の要因であることを理解することができる。 欧米諸国の制度、技術、文化の導入による日本の近代化であることを学ぶことができる。 | | |
| 立憲国家の成立と国際関係 | <ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動と憲法制定 条約改正 日清戦争と日露戦争 | <ul style="list-style-type: none"> ブルジョア民主主義運動としての自由民権運動の意義と限界を理解することができる。 条約改正の成功と日清日露両戦争をとおしての日本の国際的地位の向上と帝国主義国化を学ぶことができる。 | | |
| 近代産業の発展と国民生活 | <ul style="list-style-type: none"> 産業革命と社会労働運動の発生 明治文化 | <ul style="list-style-type: none"> 産業革命の進展に伴う歪みが社会労働運動の発生を促したことを理解することができる。 単なる近代文化としてだけではなく、伝統文化の再評価と国家主義高揚を特色とする明治文化を知ることができる。 | | |
| 第一次世界大戦と日本の経済 | <ul style="list-style-type: none"> 第一次護憲運動 第一次世界大戦と中国への進出 ベルサイユ体制と日本の孤立化 米騒動と原内閣 協調外交と強硬外交 文化の大衆化 | <ul style="list-style-type: none"> 第一次護憲運動によって初めて藩閥内閣が倒されたことを理解できる。 中国・朝鮮などへの進出の好機との判断による第一次大戦参戦であることを学ぶことができる。 対華二十一条要求やシベリア出兵などの外交・軍事政策が欧米や中国、朝鮮の反日感情悪化をもたらしたことを理解することができる。 教育の普及や経済の発展が文化を大衆レベルにまで引き上げたことを知ることができる。 | | |
| 軍国日本の形成と第二次世界大戦 | <ul style="list-style-type: none"> 昭和恐慌とファシズム体制 満州事変と日中戦争 第二次世界大戦 太平洋戦争と戦時体制 日本の敗戦 | <ul style="list-style-type: none"> 相次ぐ恐慌による被害と政府の無策、財界の腐敗などが軍部の台頭を招いたことを理解することができる。 政治経済の停滞からの脱却の方策の一つが満州や中国支配であったことを理解することができる。 中国や東南アジア諸国への侵略が欧米諸国の反発をもたらしたことによる太平洋戦争の勃発であることを学ぶことができる。 | | |
| 戦後日本の国家再編と国民生活 | <ul style="list-style-type: none"> 占領支配と民主化 戦後の国民生活 東西冷戦と逆コース | <ul style="list-style-type: none"> ポツダム宣言受諾に伴う連合国軍の占領統治支配の目標が日本の非軍事化と政治経済面での民主化であったことを知ることができる。 | | |
| 国際社会の動向と高度経済成長 | <ul style="list-style-type: none"> 安保体制と安保闘争 高度経済成長とそのひずみ 経済大国化 冷戦の終結と新たな国際問題 日本の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 公害、過疎などの社会問題は高度経済成長の負の遺産であり、その解消のために様々の対策が講じられていることを理解することができる。 南北問題や民族、宗教などによる国際問題が多発している理由や背景を学ぶことができる。 少子高齢化社会を迎える中で、資源小国である日本のあるべき姿をさまざまな角度から考察することができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------------------|--|--|-------------------------------|----------------------------|
| 地理歴史・地理B | 2 | 2 | 新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院) | フォトグラフィア地理図説2019 (とうほう) |
| 科目の概要と目標 | 日本や世界に見られる諸事象を地理的事象ととらえ、地理的な見方・考え方を培う学習を通して地理的認識を深めるとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 【自然と生活】 自然環境と生活 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の舞台としての地形 世界の地形環境 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の特色ある地形と人間生活との関わりを、具体的事例を通して考察できる。 地形環境が構成する各種の地形の特色を理解し、人間生活との関わりについて考察できる。 地形図を通して、様々な地形と人間生活との関わりを捉えることができる。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 気候と生活 世界の気候 日本の自然の特徴と人々の生活 | <ul style="list-style-type: none"> 気候環境を構成している気候要素について、その基礎的知識が定着している。 世界の気候区や土壌帯、植生の特色を理解し、人間生活との関わりを考察できる。 日本列島の地体構造や地形、気候の特色について理解するとともに、日本の災害の特徴を理解し、開発のあり方について考察できる。 | | |
| 資源と産業 | <ul style="list-style-type: none"> 産業の発達と変化 農産物の生産と流通 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の農業地域区分と農業の基本的分類についての基礎的知識が定着し、自然・社会条件との関わりを考察できる。 日本の農業の特色を、世界の農業との比較を通して理解している。 農産物の流通と日本の農業の現状を理解し、日本の農業の課題を考察できる。 | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 工業製品の生産と流通 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の工業の特色と立地条件について理解するとともに、工業地域の特色や変化について、ヨーロッパやアジアNIESなど具体的な事例を通して考察できる。 | | |
| 生活と文化 | <ul style="list-style-type: none"> 生活・文化の地域的変容 村落と都市 衣食住 消費と余暇活動 | <ul style="list-style-type: none"> 集落が立地する条件や、集落の発達について理解するとともに、家屋の配置や密度の違いを生じさせている村落の機能を考察できる。 村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解している。 衣食住は、自然条件や社会条件によって地域的差異がみられることを理解している。 世界の主要な宗教について、その分布と特色を理解するとともに、衣食住が宗教によって影響を受けていることを理解している。 行動圏の急速な拡大と、消費・余暇活動の増大が、諸地域に様々な形で影響を与えていることを理解している。 | | |
| 【世界の諸地域】 市町村規模の地域の調査 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の調査 離れた地域の調査 | <ul style="list-style-type: none"> 予備調査 - 野外調査 - 報告書の作成・発表という、地域調査の一連の方法を習得している。 実際の地域調査を通して、地域の複雑な現象や問題を体験的に理解している。 離れた地域の調査研究には、文献や資料による調査が重要な方法であることを理解し、その手法や注意事項について理解している。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|----------------------------------|---|--|-------------------------------|----------------------------|
| 地理歴史・地理B | 3 | 2 | 新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院) | フォトグラフィア地理図説2018 (とうほう) |
| 科目の概要と目標 | 日本や世界に見られる諸事象を地理的事象ととらえ、地理的な見方・考え方を培う学習を通して地理的認識を深めるとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 【世界の諸地域】 国家規模の地域の調査 | ・韓国 | <ul style="list-style-type: none"> 韓国の自然や民族・文化について、日本との比較を通して特色を理解している。 韓国の経済発展に伴う産業の変化と、それによる人々の生活の変化について考察できる。 | | |
| | ・アメリカ合衆国 | <ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国の自然条件が、人々の生活に与える影響について考察できる。 多様な民族が居住するアメリカ合衆国の歴史と、民族問題を理解し、解決に向けた課題について考察できる。 世界に大きな影響を与えるアメリカ合衆国の農業・工業について理解している。 | | |
| 州・大陸規模の地域の調査 | ・西アジア、中央アジア | <ul style="list-style-type: none"> 国境を越えて共通する自然環境の様子や、イスラム教を通じた民族の交流と文化について理解している。 石油に依存するモノカルチャー経済の様子と問題点について考察できる。 | | |
| | ・東南アジア | <ul style="list-style-type: none"> 東南アジアの民族・文化や、農業地域について、その特色と地域的差異を考察できる。 ASEAN諸国の経済発展と課題について考察できる。 | | |
| 【グローバル化する現代世界】 グローバルに結びつく現代世界 | <ul style="list-style-type: none"> 現代世界の国家と国家群 世界を結ぶ交通・通信 現代世界の貿易 | <ul style="list-style-type: none"> 国家の三要素や、国家の形態について理解している。 国境をめぐる諸問題について考察するとともに、国家間の政治的、経済的な結びつきについて理解している。 世界の交通網の地域差と発達について理解している。 情報化社会における現状と課題について考察できる。 貿易における国際分業や貿易の種類について、その基礎的知識を理解するとともに、日本の貿易の特徴と課題について、世界との関わりから考察できる。 | | |
| 近隣諸国の研究 | ・中国の研究 | <ul style="list-style-type: none"> 中国の人々の生活や政治・経済体制について、日本との共通性や異質性をもとに考察できる。 中国における生活の変化や、それに伴う課題について理解するとともに、中国の今後の動向について、日本との関わりを含めて考察できる。 | | |
| | ・ロシアの研究 | <ul style="list-style-type: none"> 広大な国土をもつロシアに居住している様々な民族の生活について、日本との共通性、異質性に着目して理解している。 | | |
| 【地球的な課題】 環境・エネルギー問題 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の環境・エネルギー問題 様々な環境・エネルギー問題 日本の環境・エネルギー問題 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の環境・エネルギー問題について、地域性をふまえて、諸問題を考察できる。 熱帯林の破壊や砂漠化、酸性雨など様々な環境・エネルギー問題について、具体的事例を通して現状を理解し、問題解決に向けての取り組みを考察できる。 地球規模の環境・エネルギー問題について、日本が果たす役割を考察できる。 | | |
| 民族・領土問題 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の民族・領土問題 民族・領土をめぐる対立の課題 民族の共生へ向けての課題 民族・領土からとらえた日本 | <ul style="list-style-type: none"> 世界の民族の違いを明らかにし、それぞれの特徴を理解するとともに、現代の国家は複数の民族から構成されていることを理解している。 民族の多様性をめぐる諸問題について、その時代背景と重ね合わせて考察できる。 各国の外国人労働者や少数民族に対する取り組みを通して、民族の共生について考察できる。 日本が抱える民族・領土問題を理解するとともに、真の国際化について考察できる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------------|---|--|--------------------------|----------------|
| 公民・現代社会 | 1学年 | 2 | 高等学校 改訂版 現代社会 [第一学習社] | 最新図説 現社 [浜島書店] |
| 科目の概要と目標 | <p>1 現代の社的事象に興味・関心を高め、意欲的に授業に取り組む態度を育てる。[関心・意欲・態度]</p> <p>2 国際的視野に立って現代社会における問題を多面的に考え公正な判断ができるようにする。[思考・判断]</p> <p>3 現代社会の特徴について資料の分析・考察、適切な表現ができるようにする。[資料活用・表現]</p> <p>4 現代社会の基本的な事項・特徴を理解し、どのように生きればよいのかを考え、より良い生き方を知識として身につけることができるようにする。[知識・理解]</p> | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 私たちの生きる社会 | <p>1高度情報化が進む現代社会 2科学技術の発達と生命倫理3地球環境問題</p> <p>1青年期を生きる私たち 2青年期の悩み 3性と恋愛について考えよう 4職業と社会参加について考えよう 5よりよく生きるとは① 6よりよく生きるとは②</p> <p>1人権の獲得と法の支配 2日本国憲法 3自由権と公共の福祉 4平等権と差別 5社会権と参政権・請求権 6広がる人権の考え方 7日本国憲法と平和主義 8平和への訴え</p> | <p>・高度情報化社会とはどのような社会なのかを理解し、留意する点を考える。科学技術の発達と生命倫理の問題を理解し、その課題について考える。環境にかかわる諸課題をとらえ、幸福、正義、公正と関連づけながら考察する。</p> <p>・青年期の特徴を理解、発達課題としてのアイデンティティの確立について考える。また、適応のしくみを理解し、青年期の悩みについて考える。豊かな人間関係を得るための、コミュニケーション能力の大切さを理解し、働くことの意義と社会参加について考える。</p> <p>西洋、東洋の思想や、日本の伝統的な考え方をすることにより、現代社会に生きる私たちの生き方の参考にする。</p> <p>・基本的人権の獲得過程と民主政治の歩みを理解する。日本国憲法の制定過程、三つの基本原理、自由権の内容と公共の福祉について理解する。平等権の意味を理解し、社会権、参政権、請求権、国民の義務を理解する。新しい人権の内容について理解を深める。平和主義の意味も理解する。</p> | | |
| 青年期の意義と自己形成 | | | | |
| 基本的人権と日本国憲法 | | | | |
| 現代の民主政治と政治参加の意義 | <p>1国民主権と議会制民主主義 2国会のしくみと役割 3国会の課題 4内閣と行政の役割と責任 5司法の役割と責任 6地方自治の役割と課題 7変化する地方自治 8政党政治のしくみと課題 9選挙制度とその課題 10 政治参加の意義</p> | <p>・民主政治の根幹となる国民主権の意味、国会のしくみと役割、内閣の仕事と役割、裁判所のしくみと役割について理解する。</p> <p>地方自治の本旨としくみについて理解する。日本の政党の変遷を理解して、政党の意義を考える。また、民主政治における世論とマスメディアの役割について考察する。国民主権の実現の場である選挙制度のしくみと課題を理解し、政治参加の意義について考察する。</p> | | |
| 現代の経済社会と私たちの生活 | <p>1企業の役割と責任 2日本経済の変化と企業 3日本経済の課題と企業 4労働者の権利と労働問題① 5労働者の権利と労働問題②</p> | <p>市場経済の意味と価格の自動調整機能、GDP、景気変動について理解する</p> <p>企業活動の目的・株式会社のしくみ、技術革新と産業構造の変化について理解する。グローバル化における日本経済の課題を考察する。労働基本権と労働三法の内容について知り、労働組合の意義について考える。失業率の上昇について理解し、雇用環境の変化について考察する。</p> | | |
| 福祉社会をめざして | <p>1政府の役割と責任 2日本の財政の課題 3金融の役割と責任 4消費者としての私たちと経済 5公害対策と環境保全 6福祉社会を実現するために</p> | <p>・財政の三つの機能、日本の税制について理解する。消費者問題、日本の公害の歴史について理解を深め、企業の取り組みを考察する。日本の社会保障制度のしくみを理解し、福祉社会の実現に向けた自分自身のあり方について考える。</p> <p>・民主政治の根幹となる国民主権の意味、国会のしくみと役割、内閣の仕事と役割、裁判所のしくみと役割について理解する。</p> | | |
| 国際経済の動向と日本の役割 | <p>1国際経済の変化 2国際通貨体制の変遷 3グローバル化した世界 4活発化する地域主義 5経済格差と南北問題 6経済援助と貧困の解消</p> | <p>戦後の国際経済の動向と国際組織を理解する。戦後の国際経済における外国為替相場について理解する。世界経済のグローバル化について理解する。グローバル化した国際経済における日本のあり方を考察する。地域的経済統合の意味について理解する。</p> | | |
| 国際政治の動向と日本の役割 | <p>1国際社会における国家 2国際政治の変化 3新しい対立と紛争 4国連の役割と責任、国連を中心とした国際平和 5 核兵器の削減と軍備の縮小 6 世界的な人権保障の動き 7さまざまな国際協力</p> | <p>南北問題の現状とその原因について理解する。南北問題に対する国連の対応や、発展途上国の経済成長に関して考察する。</p> <p>・国際社会における主権国家の意味を理解する。また、国際法概念を理解し、主権国家と国際法の関係を考察する戦後の国際政治の動向について、冷戦を中心として理解する。また、冷戦の終結と冷戦後の国際社会について考察させ、内戦や民族紛争の原因と現状についても理解する。</p> <p>・国連の成立過程とその役割、組織について理解する。世界平和への取り組みとしての、国連平和維持活動の役割と成果について理解する。戦後の核兵器をめぐる動きについて理解を深め、軍縮への国際的な取り組みについて理解する。国際的な人権保障の取り組みについて理解する。また、その課題について考える。国家による国際協力と、民間団体による国際協力について理解する。</p> | | |

| 教科・科目 | 学科・学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材(問題集) |
|--|---|--|---------------|-------------------------------|
| 数学・数学 I | 普通科・1 学年 | 4 | 新編数学 I (数研出版) | パラレルノート数学 I はぎとり式練習ドリル数学 I |
| 科目の概要と目標 | 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第4節 集合と命題 | 1 整式の加法と減法 2 整式の乗法 3 因数分解 発展 3次式の展開と因数分解 4 実数 5 根号を含む式の計算 発展 2重根号 6 不等式の性質 7 1次方程式 8 絶対値を含む方程式・不等式 9 集合 10 命題と条件 11 命題とその逆・裏・対偶 12 命題と証明 | ① 整式に関する用語の意味を理解し、整式の加法・減法・乗法についての計算ができる。 ② 整式の展開と因数分解の公式を理解し、いろいろな式を、能率よく展開と因数分解することができる。 ③ 実数の分類について整理する。また、実数の数直線への対応や実数の絶対値の計算ができる。 ④ 平方根を含む式の計算ができ、また、分母の有理化について基本的な計算をすることができる。 ⑤ 不等式について理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができる。また不等式の性質を理解し、1次不等式を解くことができる。 ⑥ 1次不等式を文章題に応用することができるとともに、連立1次不等式を解くことができる。 ⑦ 因数分解や平方完成による解法を使って、2次方程式を解くことができる。 ⑧ 解の公式の導き、それを用いて2次方程式の解を求めることができる。 ⑨ 2次方程式の実数解の個数について、調べることができる。 ⑩ 集合の表し方、部分集合、共通部分と和集合、補集合などについて基本的な考え方を理解する。 ⑪ 命題の意義を明らかにし、特に命題が、仮定、結論の2つの条件で表される場合、命題を成立させる心理集合とその命題との相互関係を理解する。 | | |
| 第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次関数と2次不等式 | 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 発展 放物線と直線の共有点の座標 7 2次不等式 | ① 2次関数のグラフをかくことができる。平行移動を利用して一般の2次関数のグラフをかくことを理解する。また、放物線のついでに性質(軸、頂点、対称性)を理解する。 ② 2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値とその求め方が理解できる。 ③ 2次関数のグラフとx軸との共有点の関係が理解できる。 ④ 2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解くことができる。 | | |
| 第3章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 | 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 発展 ヘロンの公式 8 空間図形への応用 | ① 正接、正弦、余弦の意味を理解し、直角三角形の辺の比から30°、45°、60°の正接、正弦、余弦の値を求めることができる。 ② 三角比(正接、正弦、余弦)の相互関係について理解できる。 ③ 鈍角や0°、90°、180°まで拡張した三角比の意味を理解し、その相互関係について理解を深め、それらを活用できる。 ④ 正弦定理、余弦定理、三角形の面積を求める公式を理解し、活用することができる。また、三角比を空間図形の計算で活用することができる。 ⑤ 相似な平面図形の面積比、及び立体の表面積比・体積比について理解し、それらを活用できる。 | | |
| 第4章 データの分析 | 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 データの相関 6 表計算ソフトによるデータの分析 | ① 統計データから、度数分布表やヒストグラムの作り方を理解する。 ② ヒストグラムから分布の形状のとりえ方を理解する。 ③ 分布の中心をとらえる代表値をとらえる代表値としての、平均値、中央値、最頻値を学び、分布の特徴を捉える上でのそれぞれの統計的な意味を理解する。 ④ 箱ひげ図の書き方と箱ひげ図からの分布のとりえ方について理解する。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------------|---|---|-----------------------|------------------------------|
| 理科・科学と人間生活 | 2学年 | 2 | 科学と人間生活 新訂版 (実教出版) | アクセスノート科学と人間生活 改訂版 (実教出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な概念や原理・法則を理解する。 ・自然の事物・事象についての観察, 実験や課題研究などを行い, 自然に対する関心や探究心を高める。 ・科学的な自然観を育成する。 ・現在及び将来における科学の課題と身近な人間生活との関わりについて考察し, 環境問題などへの理解を深める。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 1章 科学と技術の発展 | <ul style="list-style-type: none"> ・科学と技術の始まり ・生物学と医療 ・化学の魅力ー元素から地球環境までー | <ul style="list-style-type: none"> ・科学の発展の歴史や、人間生活との具体的な関わりについて理解できる。 | | |
| 2章 光や熱の科学 | 光の性質とその利用 | <ul style="list-style-type: none"> ・光の性質が理解できる。 ・光の利用方法や日常生活との関わりについて考察できる。 | | |
| 3章 物質の科学 | 食品と衣料 | <ul style="list-style-type: none"> ・食品を構成する成分について理解を深めることができる。 ・食品に対する酵素の働きを知ることができる。 ・さまざまな繊維の特徴や利用方法について理解できる。 | | |
| 4章 生命の科学 | 微生物とその利用 | <ul style="list-style-type: none"> ・微生物発見の歴史や、微生物の特性、種類を理解する。 ・微生物と人間生活の関わりについて学び、考察する。 | | |
| 5章 宇宙や地球の科学 | 身近な自然景観と自然災害 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然景観がどのようにできたのかを理解できる。 ・日本列島特有の地質的な特徴をプレートテクニクスと関連づけて理解できる。 ・地震や火山のメカニズムを理解し、防災について考えることができる。 | | |
| 6章 科学・技術の進歩と人間生活 | | <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の成果と今後の課題について考察し, 科学技術と人間生活との関わりについて探究できる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|--|---|--------------------|---------------------------|
| 理科・物理基礎 | 2学年 | 2 | 改訂版 物理基礎 (数研出版) | リードLightノート物理基礎 (数研出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・物理の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的なものの見方・考え方を育成する。 ・身近な運動や物理現象について、興味・関心を持たせる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につける。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 第2章 力と運動 第3章 仕事とエネルギー 第2部 物理現象とエネルギー 第1章 熱とエネルギー 第2章 波とエネルギー 第3章 電気とエネルギー 第4章 エネルギーとその利用 ・いろいろなエネルギーとその利用 | <ul style="list-style-type: none"> ・速さと速度 ・加速度 ・落下する物体の運動 ・力 ・運動の法則 ・運動方程式の応用 ・圧力と浮力 ・仕事 ・運動エネルギーと位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 ・熱とは何か ・熱量 ・熱の利用 ・波の伝わり方 ・波の性質 ・音波 ・音源の振動 ・静電気 ・電流 ・交流と電磁波 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動の多様性と基本的な概念や原理・法則が理解できる。 ・運動の3法則が理解できる。 ・仕事、仕事の原理、仕事率、エネルギーの基本概念が理解できる。 ・エネルギーと熱の関係を理解できる。 ・波動の基本性質である、振幅・波長・振動数・周期 ・波の速さや縦波・横波、干渉・回折を理解できる。 ・音の波動としての性質や特有の性質を理解できる。 ・私たちの日常生活において電気がいかに大切なものかを知り、それぞれの関係を理解できる。 ・エネルギー資源にはどのようなものがあり、それらの特徴を理解できる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|----------|---|---|----------|-----------------------|
| 理科・化学基礎 | 1学年 | 2 | 化学基礎（実教） | 新リピートノート化学① （浜島書店） |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質の構成粒子とそれが構成する物質、および、物質が様々な変化をして他の物質をつくることを理解する。 ・物質についての基本的な粒子概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し、習得させるとともに、生活に関連した科学的自然観や思考力を育成する。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 物質の構成 | 物質の種類と性質 物質と元素 物質の三態と熱運動 原子の構造 電子配置と周期表 | <ul style="list-style-type: none"> ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 | | |
| 物質と化学結合 | イオン間の結合 イオン結合からなる物質 原子間の結合 共有結合からなる物質 分子間の結合 金属原子間の結合 金属結合からなる物質 | <ul style="list-style-type: none"> ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができている事を理解する。 | | |
| 物質の変化 | 原子量・分子量と式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係 基本法則に関連した化学史 酸と塩基 酸化還元反応 | <ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量・式量などの物質質量の基本事項を学ぶ。 ・物質質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 ・化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 ・酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 ・中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。 ・酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 ・酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|--|--------------------|-----------------------|
| 理科 (生物基礎) | 2 学年 | 2 | 改訂版 生物基礎 (数研出版) | リードLightノート (数研出版) |
| 科目の概要と目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対するの興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 1 編 生物の特徴 1 章 生物の共通性 2 章 生命活動とエネルギー | <ol style="list-style-type: none"> ① 生きているとは？ ① 生命活動を支える代謝 ② 生体内のエネルギー変換 | <ul style="list-style-type: none"> ・細胞は水のほかタンパク質、炭水化物、脂質、核酸などの有機物を含んでいることを理解できる。 ・細胞内では分解や合成などの代謝が行われ、その際同時にエネルギーの出入りや変換を伴うことを理解できる。 | | |
| 2 編 遺伝子とのはたらき 1 章 生物と遺伝子 2 章 遺伝子の均等配分 3 章 タンパク質の設計図 | <ol style="list-style-type: none"> ① DNAの構造 ② DNAとゲノム ① 細胞分裂とDNA ② DNAの倍加 ③ DNAの正確な複製 ① DNAとタンパク質合成 ② 生命現象を支えている遺伝子 | <ul style="list-style-type: none"> ・体細胞分裂の過程について染色体の動きを追いながら理解できる。 ・細胞周期の間期にDNAが複製され、分裂期にDNAが等しく分配され、その結果どの細胞でもDNAの量と質が均一になることを理解できる。 ・塩基の配列を正確に複製する方法について理解できる。 ・タンパク質合成に際して、DNAの塩基配列がアミノ酸配列に置き換えられることを理解できる。 | | |
| 3 編 生物の体内環境の維持 1 章 体内環境の維持 2 章 体内環境を保つしくみ 3 章 体内環境を守るしくみ | <ol style="list-style-type: none"> ① 内部環境の特徴 ② 体内環境を調節する器官 ① 自律神経系による調節 ② ホルモンによる調節 ③ 血糖値の調節 ① 免疫のシステム ② 免疫とヒト | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の体内環境が保たれていることと、それに循環系・自律神経系・内分泌系がかかわっていることを理解できる。 ・自律神経系の分布とはたらきを理解できる。 ・交感神経と副交感神経が拮抗的にはたらいっていることを理解できる。 ・ホルモンとは何かということを、はたらきや性質を学習することによって理解できる。 ・病原体などの異物から身を守るために、それらの侵入を防ぐしくみや、それらを白血球やリンパ球のはたらきで排除するしくみがあることを知る。 | | |
| 4 編 生物の多様性と生態系 1 章 植生の多様性 2 章 気候とバイオーム 3 章 生態系と保全 | <ol style="list-style-type: none"> ① 生態系における植物の役割 ② 植生と遷移 ① 地球上の植生分布 ② さまざまなバイオーム ① エネルギーと物質の循環 ② 生態系のバランスと保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の集団と非生物的環境が互いに関係して、生態系をつくっていることを理解できる。 ・生態系は多種多様な生物によって構成されており、それぞれの生物が役割を担っていることを理解できる。 ・気温と降水量の違いによって、地球上では様々なバイオームが成立していることを理解できる。 ・生態系において物質が循環すること及びそれに伴ってエネルギーが循環することを理解できる。 ・生態系のバランスについて理解し、生態系を保全することが重要であることを認識できる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------------|---|--|-------------------|------------------------------|
| 理科 (地学基礎) | 2 学年 | 2 | 地学基礎 改訂版 (啓林館) | サンダイヤル Navi&トレーニング地学基礎 (啓林館) |
| 科目の概要と目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 第1部 固体地球とその変動 | 地球の概観について学び、その内部構造について理解する。 プレートと地球の活動について理解し、地震や火山活動、火成岩の形成について学ぶ。 | 活動する地球に関する探究活動を行い、その学習内容の理解を深めるとともに、地学的に探究する能力を高める。 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。 火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。 | | |
| 第2部 移り変わる地球 | 堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び、地球の歴史の組み立てについて理解する。 古生物の変遷と地球環境の変化について理解し、先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。 | 地層が形成される仕組みと地質構造について理解する。 古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。 | | |
| 第3部 大気と海洋 | 大気圏について理解し、水と気象の関係を学ぶ。 地球全体のエネルギー収支について理解し、大気の大循環や海水の循環について学ぶ。 日本で見られる冬から春、夏から秋への季節の気象について学ぶ。 | 大気の構造と地球全体のエネルギー収支について理解する。 大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。 | | |
| 第4部 宇宙の構成 | 太陽系の誕生について理解し、太陽の表面の現象と太陽のエネルギー源及び太陽系の天体について学ぶ。 恒星としての太陽の誕生と進化を理解する。 銀河系とまわりの銀河について学び、宇宙の誕生と銀河の分布について理解する。 | 宇宙の誕生と地球の形成について観察、実習などを通して探究し、宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。 | | |
| 第5部 自然との共生 | 地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解し、日本の自然災害と防災について学ぶ。 | 地球環境の変化を科学的に考察する。 日本の自然環境を理解し、その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------------------|--|--|-------------------|-----------------------------|
| 保健体育・体育 | 1学年 | 3 | 現代高等保健体育 (大修館) | ACTIVE SPORTS 2019 (大修館) |
| 科目の概要と目標 | <p>・体づくり運動、陸上競技、球技、武道などを通して、安全に留意して計画的に運動を実践する習慣を育成するとともに健康の保持増進と体力の向上を図る。</p> <p>・活動を通して公正、協力、責任感などを養い、生涯を通して継続的かつ自主的に運動を実践できる能力と態度を育成する。</p> | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 集団行動 | 姿勢、集合、解散、整頓、 方向転換、列の増減 | 集団行動の主な行動様式を身につけ、集団としてのきまりや約束を守り、スムーズに、かつ安全に行動することができる。 | | |
| 体づくり運動 | 体ほぐし運動 体力を高める運動 新体力テスト | 自己の体力・運動能力の現状を確かめ、基礎的な体力を養いことができる。 仲間と共感的に運動を楽しむことができる。 | | |
| 体育理論 | スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 | スポーツはどのような変化をしてきたのか、どのような役割を果たしているのかを理解することができる。 | | |
| 陸上競技 | 陸上競技の理解、種目の選択、目標の設定 記録会、ルールと審判法 | 自己の記録を高めたり、定められたルールや条件のもとで時間や距離、高さを競い合うことができる。 | | |
| 球技 サッカー(男) テニス(女) | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 ソフトボール(男女) | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 バレーボール(男女) | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームをさせる。 | | |
| 武道(剣道) | 武道の理解、礼法 基本動作 対人的技能 約束練習 試合、ルールと審判法 | 相手の動きに対応した攻防ができるようにさせ、礼儀作法を尊重して練習や試合ができる。 | | |
| ダンス | ダンスの理解 とらえ方の学習 表し方の学習 まとめ方の学習、 発表、鑑賞 | 感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして交流し、発表することができる。 | | |
| 球技 バスケットボール(男女) | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 バドミントン (男女) | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------------------|--|--|---------------------|-----------------------------|
| 保健体育・体育 | 2学年 | 2 | 現代保健体育 改訂版 (大修館) | ACTIVE SPORTS 2018 (大修館) |
| 科目の概要と目標 | <p>・体づくり運動、陸上競技、球技、武道などを通して、安全に留意して計画的に運動を実践する習慣を育成するとともに健康の保持増進と体力の向上を図る。</p> <p>・活動を通して公正、協力、責任感などを養い、生涯を通して継続的かつ自主的に運動を実践できる能力と態度を育成する。</p> | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 集団行動 | 姿勢、集合、解散、整頓、方向転換、列の増減 | 集団行動の主な行動様式を身につけ、集団としてのきまりや約束を守り、スムーズに、かつ安全に行動することができる。 | | |
| 体づくり運動 | 体ほぐし運動 体力を高める運動 新体力テスト | 自己の体力・運動能力の現状を確かめ、スポーツ種目に応じた体力の各要素を高めることができる。 仲間と共感的に運動を楽しむことができる。 | | |
| 体育理論 | 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 | 運動の技能を高めるためには何をどのように取り組めばよいのか、安全をどのように確保するかを理解することができる。 | | |
| 陸上競技 | 陸上競技の理解、種目の選択、目標の設定 記録会、ルールと審判法 | 自己の記録を高めたり、定められたルールや条件のもとで時間や距離、高さを競い合うことができる。 | | |
| 球技 サッカー（男） テニス（女） | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 ソフトボール | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 バレーボール | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| 球技 バドミントン | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |
| ダンス（女子） 選択 | ストレッチ 脚上げ・振り上げ 回転・ジャンプ リズムトレーニング 空間構成 音響・照明 | ダンス部を中心に、ダンサーとしての基礎を練習する。みんなで話し合い、テーマを決定し、富山地区大会に参加するための作品づくりを行う。さらに、予選通過をねらい、富山県大会に出場することを目標とする。 ボランティア活動として、地域の幼稚園や老福祉施設を訪問し、自分達の作った踊りを見て楽しんでもらう。 | | |
| 球技 バスケットボール | 特性とルールの理解 個人的技能 集団的技能 試合、審判法 | チームの課題や自己の能力に応じて、運動の技能を高めさせ、作戦を生かした攻防を展開したゲームができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|----------|--|---|---------------------|-----------------------------|
| 保健体育・体育 | 3学年 | 2 | 現代保健体育 改訂版 (大修館) | ACTIVE SPORTS 2017 (大修館) |
| 科目の概要と目標 | <p>・体づくり運動、陸上競技、球技、武道などを通して、安全に留意して計画的に運動を実践する習慣を育成するとともに健康の保持増進と体力の向上を図る。</p> <p>・活動を通して公正、協力、責任感などを養い、生涯を通して継続的かつ自主的に運動を実践できる能力と態度を育成する。</p> | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 集団行動 | 姿勢、集合、解散、整頓、方向転換、列の増減 | 集団行動の主な行動様式を身につけ、集団としてのきまりや約束を守り、スムーズに、かつ安全に行動することができる。 | | |
| 体づくり運動 | 体ほぐし運動 体力を高める運動 新体力テスト | 自己の体力・運動能力の現状を確かめ、不足している網力を高めることができる。 各スポーツ種目に応じた専門的な網力を高めることができる。 仲間と共感的に運動を楽しむことができる。 | | |
| 体育理論 | 豊かなスポーツライフの設計の仕方 | 生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計できるよう、ライフスタイルに応じたスポーツへのかかわり方や無理なくスポーツを継続するため方法を理解することができる。 | | |
| 陸上競技 | 陸上競技の理解、種目の選択、目標の設定 記録会、ルールと審判法 | 自己の記録を高めたり、定められたルールや条件のもとで時間や距離、高さを競い合うことができる。 | | |
| 選択制授業 | 学習計画の作成、各種目の特性とルールの理解、個人的技能、集団的技能、試合、審判法、評価を学ぶ。 | 自己の能力・適性や興味・関心に応じて種目を選択し時間数や施設などを確認して、目標を設定することができる。 全体の学習計画・各時間の計画に基づき活動し、結果を評価・反省することができる。 | | |
| 球技 | | | | |
| ソフトボール | | | | |
| サッカー | | | | |
| バレーボール | | | | |
| バスケットボール | | | | |
| バドミントン | | | | |
| 卓球 | | | | |
| ビーチボール | | | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|----------------------|--|---|------------------|-------------|
| 保健体育・保健 | 1学年 | 1 | 現代高等保健体育改訂版(大修館) | 図説現代保健(大修館) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生として、生涯を通じた健康づくりの基礎となる事柄について理解、認識できる。 ・社会情勢の急速な変化に対応しつつ、自己実現をはたすために、人命の尊重、さまざまな健康問題の観点から、新しい時代の健康のあり方などについて理解し認識できる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 【現代社会と健康】 健康のとらえ方 | 平均寿命の伸び、乳幼児死亡率の改善 健康問題の変化 健康のとらえ方 適切な意志決定・行動選択の重要性と要因 健康に関する環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の健康水準について、説明できる。 ・現代社会における健康の成立要因や条件について説明できる。 ・意志決定・行動選択の重要性を健康問題と関連させて説明できる。 ・健康的な意志決定・行動選択をおこなうための工夫を理解する。 ・さまざまな保健活動や対策について理解する。 ・ヘルスプロモーションについて理解する。 | | |
| 健康の保持増進と疾病の予防 | 生活習慣病とその予防 健康と食事、運動、休養、睡眠とのかかわり 喫煙の健康被害と対策 飲酒の健康被害と対策 薬物乱用の健康被害と対策 現代の感染症 感染症の予防策 H I V感染症 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病について具体例をあげて説明できる。また、それを防ぐ方法を考えることができる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用を身近な問題としてとらえ、どのような対策が必要か説明できる。 ・現在問題となっている感染症の例をあげ防止対策について考えることができる。 ・エイズの実態を説明し予防について考えることができる。 | | |
| 精神の健康 | 欲求不満と適応機制 ストレスと心身の健康 ストレスへの対処法 自己実現と心の健康 | <ul style="list-style-type: none"> ・欲求不満から生じる不安や、悩みに対する適応機制の例を説明できる。 ・心と体の働きが相互に関連しあうことを理解し、ストレスへの対処法を考えることができる。 ・自分にとっての自己実現とは何かを考えることができる。 | | |
| 交通安全 | 交通事故の現状と要因 交通事故の責任と補償 安全な交通社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の特徴を説明できる。 ・交通事故をおこした場合に生じる責任や補償について説明できる。 ・安全な交通社会実現の方策を具体的に説明できる。 | | |
| 応急手当 | 応急手当の意義と手順 心肺蘇生法 日常的な応急手当 | <ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の意義と手順について説明できる。 ・心肺蘇生法をおこなうことができる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|----------------------------|--|--|-----------------|-------------|
| 保健体育・保健 | 2学年 | 1 | 現代保健体育 (大修館) | 図説現代保健(大修館) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・高校生として、生涯を通じた健康づくりの基礎となる事柄について理解、認識できる。 ・社会情勢の急速な変化に対応しつつ、自己実現をはたすために、人命の尊重、さまざまな健康問題の観点から、新しい時代の健康のあり方などについて理解し認識できる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 【生涯を通じる健康】 生涯の各段階における健康 | 思春期の体と心 性意識の男女差 性的欲求と性行動 結婚生活と健康 受精・妊娠・出産 家族計画の意義 避妊法とその選択 人工妊娠中毒 加齢にともなう心身の変化 高齢者の健康と支援 保健・医療・福祉の連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の心身の発達の特徴を説明できる。 ・性意識の男女差を説明できる。 ・健康の観点から結婚生活を考えることができる。 ・受精・妊娠・出産の課程が説明できる。 ・家族計画の意義と避妊法の選択について説明できる。 ・加齢にともなう心身の変化を説明できる。 ・高齢者の健康課題を理解し、総合的対策の必要性を説明できる。 | | |
| 保健・医療制度と地域の保健・医療機関 | 保健行政の役割としくみ 保健サービスの活用 医療費と医療保健。 医療機関の役割 医療サービスの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割としくみを説明できる。 ・医療費と医療保険のしくみについて説明できる。 ・医療機関の選び方について説明できる。 | | |
| 【社会生活と健康】 環境と健康 | 大気汚染による健康被害 水質汚濁による健康被害 土壌汚染による健康被害 環境汚染の防止と改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境汚染がどのように健康に影響するかを原因物質の例をあげて説明できる。 ・環境汚染の防止・改善対策を説明できる。 | | |
| 環境と食品の保健 | 環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き 食品・環境の安全と私たちの役割 | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ・し尿処理、上下水道の整備について問題点をあげ具体的対策を考えることができる。 ・食品の衛生管理について対策例をあげることができる。 ・自分たちでできる食品の安全性確保、環境汚染の予防対策を考えることができる。 | | |
| 労働と健康 | 労働と健康問題 労働災害と職業病 健康的な職業生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・働く人の健康問題の変化を説明できる。 ・労働災害の防止対策をあげることができる。 ・職場の健康管理活動例をあげることができる。 ・職場の健康増進対策について説明できる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------|---|--|-----------------|----------|
| 芸術・音楽Ⅰ | 1 | 2 | MOUSA 1 (教育芸術社) | 教師作成プリント |
| 科目の概要と目標 | 音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> 校歌 授業内容と準備物を知る | <ul style="list-style-type: none"> 校歌(3番まで)の歌唱練習に取り組み、本校生徒の自覚を高める 学習内容や授業準備について理解する | | |
| 歌声を伸ばそう | <ul style="list-style-type: none"> 身体と声について学ぶ 共鳴と発声 声のトレーニング | <ul style="list-style-type: none"> 発声や呼吸法について学び、実践的に取り組む 身体の使い方と声の変化に興味を持ち、発声に活かす 声のトレーニングを通して声域や響きの伸長をめざす | | |
| 表現を工夫して歌おう | <ul style="list-style-type: none"> 教科書掲載曲の歌唱 詩と音楽 歌い方の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 各曲の達成目標を理解し、主体的に取り組む 発音や言語による歌い方の留意点を学び、歌唱に活かす 曲想と表現について考え、歌い方を工夫する 意図をもって歌唱曲を選び独唱する | | |
| 鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> ミュージカルやバレエ作品等の舞台芸術を音と映像で鑑賞する 鑑賞(演奏聴き比べ) | <ul style="list-style-type: none"> 舞台を構成する諸要素や表現の多様性を学び、音楽文化について視野を広げることができる 聴き比べによる分析やコメント記入を通して、伝える力や鑑賞の能力を高めようとする | | |
| 器楽アンサンブル | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の名称と分類 トーンチャイム合奏(クラス全体合奏) リコーダーアンサンブル(グループ発表) | <ul style="list-style-type: none"> オーケストラ楽器を中心に楽器に関する知識を深める 自身の担当と全体の流れを把握し、演奏力の向上や読譜力の向上に努めることができる 楽器の特徴を理解し演奏に必要な技能を身につける 演奏をとらえ表現や手立てを考えることができる | | |
| 楽典 | <ul style="list-style-type: none"> 楽譜の見方 音楽記号と奏法 音楽用語 楽典と演奏表現 | <ul style="list-style-type: none"> リズムや反復記号等を理解し演奏に役立てることができる 基礎的な楽典を学び、音楽の要素と効果に関心をもって活動に取り組むことができる 音楽用語や記号から創造的に考えることができる | | |
| 音楽の歴史にふれよう | <ul style="list-style-type: none"> 中世～現代の西洋音楽史を音と映像で学ぶ 主な作曲家の作品や特徴にふれる | <ul style="list-style-type: none"> クラシック音楽の時代による特徴や変遷に興味を持ち、それぞれの良さや美しさを感じ取ろうとする 作曲家と作品について知識を深めることができる | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------------|---|---|---------------|------|
| 芸術・美術Ⅰ | 1 | 2 | 美術1 (光村図書) | |
| 科目の概要と目標 | 主題を理解し、表現の方法を自ら探り、指針を持って粘り強く追究する能力と態度を育てる。また、美術の多様性を知ること、表現の幅広さを感じられるよう、鑑賞する能力を育てる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| オリエンテーション | ・学習内容紹介 | ・美術の学習の関心と制作への心構えができる。 | | |
| 絵画 (鉛筆デッサン) | ・風景を描く ・静物を描く ・作品鑑賞 | ・基本的な知識と表現力を身に付けることができる。 ・細部にとらわれず、全体的に特徴をとらえて表現することができる。 | | |
| 絵画 (アクリルガッシュ) | ・読書感想画を描く ・作品鑑賞 | ・物語の感想や解釈を伝えるための、構図の取り方、表現方法を身に付けることができる。 ・着彩による多様な表現をすることができる。 | | |
| デザイン (タイポグラフィ) | ・レタリング ・ポスター制作 ・作品鑑賞 | ・教科書のフォントを教材として、和文と欧文のそれぞれの形態の美しさやバランスを理解することができる。 ・メッセージをわかりやすく効果的に伝えることができる。 ・漢字の持つ意味をビジュアルとして伝達することができる。 | | |
| デザイン (色彩構成) | ・色彩の構成 ・作品鑑賞 | ・色の仕組みを理解することができる。 ・ガラス棒を使った着彩技術を身につける。 | | |
| 造形 (立体構成) | ・アートボックス ・作品鑑賞 | ・立体的に構図を組み立てることができる。 ・物語性を込めることができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------|---|--|-----------|------|
| 芸術・書道Ⅰ | 1 | 2 | 書道Ⅰ（教育出版） | |
| 科目の概要と目標 | 書道の幅広い活動を通して生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| オリエンテーション | 用具・用材 書写から書道へ 表現の変化 | 用具・用材について理解し、丁寧に扱うことができる。 起筆穂先の向きによって、さまざまな線の表現ができる。 紙や墨、筆の種類によって、表現に変化をつけることができることを知る。 | | |
| 漢字の書 | 古典に基づく学習 （鑑賞・臨書） 楷書の用筆法 行書の用筆法 | 漢字の成立と変遷について知る。 楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方を理解して、書くことができる。 古典の楷書（孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛躰造像記）の用筆法、運筆法を理解して書くことができる。 行書の用筆、運筆、字形の取り方、特徴を理解して、書くことができる。 古典の行書（蘭亭序・風信帖・争坐位文稿）の用筆法、運筆法を理解して書くことができる。 | | |
| 篆刻 | 落款と篆刻 | 篆刻の用具用材について理解し、篆刻の手順等について学習する。 名印を刻す。 | | |
| 漢字の書 | （鑑賞・創作） | 創作の順に従い、学んだ楷書、行書の古典の特徴や技法を生かして、創作する。 創作作品を裏打ちし、作品装丁する。 他者の作品を鑑賞する。 | | |
| 仮名の書 | 仮名の用筆法 仮名の筆使い 平仮名の単体 連綿 変体仮名 古筆の鑑賞と臨書 全体構成の工夫 | 仮名の成立を知る。いろは歌を理解する。 仮名の基本的な線や運筆について知る。 平仮名の単体の特徴を知り練習する。平仮名の字母を覚える。 連綿に慣れ、基本線を書くことができる。 変体仮名について理解する。 古筆（蓬萊切・高野切第三種・三色紙）の用筆法等を理解し、臨書することができる。 ちらし書きを理解し、作品を仕上げる。 | | |
| 書道展出品作品 | 全日本高等学校書道 コンクール出品作品制作 | 漢字（楷書・行書）の古典の特徴を捉え、臨書して作品を仕上げる。 | | |
| 漢字仮名交じり書 | 表現と鑑賞 漢字と仮名の調和 用具・用材による表現の変化 紙面構成のバリエーション | 教科書掲載の作品を鑑賞し、漢字と仮名の多様な表現法を知る。 紙（にじむ紙・にじまない紙）、墨（濃墨・淡墨）、筆（長鋒・短鋒・剛毛・柔毛）によるいろいろな表現の変化を知る。 好きな詩文を墨色、墨の潤濁、文字の大小、行数、行頭、縦書横書などを考え、紙面構成を工夫して書く。 | | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|---|--|-------------------------------|
| 外国語・コミュニケーション英語 I | 1 学年 | 5 | Grove English Communication I New Edition (文英堂) | 教科書、FILL-IN授業ノート、ワークブック、プリント等 |
| 指導の目標 | 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 ①事物に関する紹介や対話、説明などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 ②英文を聞き手に伝わるように音読する。 ③日常的な話題について、ALTや友人と積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。 | | | |
| 学習の進め方 | (予習) FILL-IN授業ノートの指示にしたがい、内容をつかみ、新出単語を調べる。文法に関しては、教科書の解説を読み、問題を解いてくる。 (授業) 新出単語の確認、内容把握(スラッシュリーディング)、音読、コミュニケーション活動、文法演習 (復習) 既習課の本文の音読、単語練習、ワークの演習問題等 | | | |
| 評価方法 | 定期考査、出席、課題提出、予習・復習、音読テスト、授業中のコミュニケーション活動への取り組みなどを総合評価する。 | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達目標 | | |
| Lesson 1 Omotenashi: The Spirit of Japan ・日本を訪れる外国人旅行者の声を通して自国の文化であるおもてなしについて理解を深める。 ・現在・過去・未来/主部と述部/第1～3文型 | | <ul style="list-style-type: none"> ・外国からの旅行者が関心をもつ事柄を知ることができる。 ・「おもてなし」という言葉の由来を読み取り、「おもてなし」はどのような精神なのか理解することができる。 ・現在・過去・未来/主部と述部/S+V, S+V+C, S+V+Oについて理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる | | |
| Lesson 2 Why Is That So? ・身の回りの不思議なことについて考える。 ・冠詞+(形容詞)+名詞、不定詞、動名詞 | | <ul style="list-style-type: none"> ・時計はなぜ右回りかなどの日常の疑問を読み、視野を広げることができる。 ・自然と人間の知恵との関わり、階級制度や外国の服飾文化、挨拶を始めとする他人とのコミュニケーションの取り方等を考えることができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・冠詞+(形容詞)+名詞、不定詞、動名詞について理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 3 The Bento Goes International ・日本とアメリカの昼食の違いと、弁当の良さについて考える。 ・進行形、第4・5文型 | | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の弁当について理解するとともに、アメリカ人の昼食について知ることができる。 ・世界に広まりつつある弁当について理解することができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・進行形、第4・5文型を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 4 Owen and Mzee: An Amazing Friendship ・カバとカメの意外な友情について知り、人間の友情について考える。 ・現在完了形、that節、過去完了形 | | <ul style="list-style-type: none"> ・カバとカメの友情の話を理解し、科学では説明できないこともあることについて意見交換をすることができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形、that節、過去完了形を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 5 The Impossible Is Possible ・ノンフィクション作家の高野秀行さんが作家になるきっかけとなった冒険と、彼のメッセージを読み取る。 ・分詞の形容詞的用法、to不定詞(形容詞的用法)、受け身 | | <ul style="list-style-type: none"> ・高野秀行さんがどのような人物で、何をしたのかを理解することができる。 ・若者に伝えたい高野さんのメッセージを理解し、自分の意見を発表することができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・分詞の形容詞的用法、to不定詞(形容詞的用法)、受け身を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 6 Eric Carle: How He Creates His Art ・エリック・カールの絵本と、彼の創作過程を知る。 ・関係代名詞、to不定詞(副詞的用法)、関係代名詞what | | <ul style="list-style-type: none"> ・エリック・カールの絵本に小さな生き物が多く登場する理由を知ることができる。 ・アイデアがどこから生まれるかを理解することができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞、to不定詞(副詞的用法)、関係代名詞whatを理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 7 The Netherlands-Living with Water ・オランダと日本の関係やオランダの人々の生活について知る。 ・比較、It構文、不定詞の意味上の主語 | | <ul style="list-style-type: none"> ・オランダと日本の環境についての意識の違いを理解し、オランダの人々の生活について意見交換をすることができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・比較、It構文、不定詞の意味上の主語を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 8 Collective Intelligence ・様々な動物の集合知の例を読み、人間も他の人と協力することが大切であることを知る。 ・「S+V+O(=疑問詞節など)」「S+V+O+C(=現在分詞)」「S+V+O+ C(=原形不定詞)」/It is+形容詞 [名詞]+that節 | | <ul style="list-style-type: none"> ・「集合知」とはどのようなものか理解することができる。 ・アリはどうして交通渋滞を起こさないのか、ハトの動きから何が作り出されたのかを知ることができる。 ・人間の集合知の例を調べ、情報を共有することができる。 <文型・文法事項> 「S+V+O(=疑問詞節など)」「S+V+O+C(=現在分詞)」「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 「It is+形容詞 [名詞]+that節」を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |
| Lesson 9 10 Billion ・私たち人間が他の生物や自然に対してどのような影響を与えているかを知り、今私たちにできることを考える。 ・助動詞を含む受け身、関係副詞、仮定法過去、現在完了進行形 | | <ul style="list-style-type: none"> ・世界人口の推移とその影響について知ることができる。 ・地球上で起こっている問題とそれが引き起こすであろう未来について知り、それを食い止めるためにできることを考えることができる。 <文型・文法事項> <ul style="list-style-type: none"> ・助動詞を含む受け身、関係副詞、仮定法過去、現在完了進行形を理解し、問題演習に取り組み、英文を作ることができる。 | | |

| 教科・科目 | 対象・学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--------------|---|-------------|--|------|
| 家庭 家庭基礎 | 1 学年 | 2 | 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) | |
| 科目の概要 と目標 | 人の一生と家庭・家族、保育、福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力を養う。そして、学習したことが生活に生かせるような実践的な態度を育てる。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 実験・実習 | 到達目標 | |
| 食生活をつくる | <ul style="list-style-type: none"> 現代の食生活の課題について学習する。 栄養や食品、調理法について理解し、調理実習を通して調理の基本的技術を学ぶ。 | 調理実習 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活について関心を持ち、課題を見つけることができる。 栄養や食品、調理法についての知識を活用し、調理の基本的な技術を身につけることができる。 | |
| 衣生活をつくる | <ul style="list-style-type: none"> 被服の役割について学習する。 被服の選択や購入、手入れや洗濯、保管などの基本的な知識と技術を学習する。 | 基礎縫い | <ul style="list-style-type: none"> 健康で快適な生活を送るための着装を工夫することができたか。また、場に応じた着装を選択することができる。 被服の表示や品質についての知識や手入れについての基本的な知識と技術を身につけ、快適な衣生活について考えることができる。 | |
| 自分らしい人生をつくる | <ul style="list-style-type: none"> ライフステージごとの特徴や課題を学習する。 家庭生活の意義と現代の家族に求められる機能について学習する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 青年期の特徴を踏まえ、自分自身がこれからの家族や家庭生活をどのように築いていくかを考えることができる 家族や家庭の果たす役割を理解し、現在の家族と将来の家族について考えることができる。 | |
| 子どもと共に育つ | <ul style="list-style-type: none"> 子どもの人間形成に関わる親の役割について理解する。 | 子育て支援センター訪問 | <ul style="list-style-type: none"> 親の役割を理解し、自分自身が親となっていくことを自覚し、これからの保育の在り方について考えることができる。 | |
| 住生活をつくる | <ul style="list-style-type: none"> 住居の機能やライフステージごとの住要求について学習する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 生活スタイルに合った様々な住まい方があることを理解し、将来、どのような住まい方をしたいか考えることができる。 | |
| 高齢社会を生きる | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の特徴や高齢者を取り巻く社会情勢について学習する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活やこれからの高齢社会の課題を理解させ、高齢者を支える社会の仕組みについて考えることができる | |
| 生活を設計する | <ul style="list-style-type: none"> 自分らしいライフスタイルを描きながら、生活設計を考える。 | 人生ゲーム作成 | <ul style="list-style-type: none"> 価値観や生き方が多様化していることを認識させ、自分の価値観に基づき、生活設計を考えることができる。 | |
| 共に生き、共に支える | <ul style="list-style-type: none"> 社会保障と福祉サービスについて学習する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自分が社会に支えられていることを理解し、これからの福祉や社会的支援について考えることができる | |
| 経済活動を営む | <ul style="list-style-type: none"> 社会経済と家庭経済の関係について学習する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自分の消費行動を振り返るとともに、消費生活の問題に対して、正確な知識と情報を収集し、主体的に判断し行動する態度を身につけることができる。 | |
| ホームプロジェクト | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中の問題点を見出し、それを解決するための実践活動を行う。 | レポート提出 | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中での問題を発見し、学習した知識を活用して課題を解決していくことができる。 | |

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---------------|--|---|-------------------|-------------------------|
| 情報・社会と情報 | 1 学年 | 2 | 高校社会と情報 (実教出版) | 高校社会と情報 学習ノート (実教出版) |
| 科目の概要と目標 | 1 情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。 2 情報を意欲的に利用し、主体的に活用しようとする態度を育てる。 3 情報を扱う道具として、コンピュータをある程度は使いこなせるようにする。 | | | |
| 単元 | 学習内容 | 到達度目標 | | |
| 第1章 情報社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報社会 ・社会の変化と個人の責任 ・情報社会の問題 ・メディアとその特徴 ・個人情報とその保護 | <ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりにあるさまざまな情報をどのように処理するか、その基本的概念に理解できる。 ・情報を処理するにあたって、効果的なコンピュータの使い方を理解できる。 | | |
| 第2章 コミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・メールの利用 ・ネットワーク ・インターネットの仕組み ・Web ページの閲覧とメールの仕組み | <ul style="list-style-type: none"> ・情報のより効果的な検索方法について理解できる。 | | |
| 第3章 情報安全 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全のための情報技術 ・暗号化 ・知的財産権 ・著作権 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の取り扱い方や個人情報、知的財産権やセキュリティについて説明できる。 | | |
| 第4章 デジタル化 | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル情報の特徴 ・音声のデジタル化 ・画像のデジタル化 ・圧縮の仕組み | <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化について、その仕組みや原理について理解できる。 | | |
| 第5章 問題解決 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集 ・情報の整理と管理 ・プレゼンテーションの方法 ・Web ページによる情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを利用した実習作品の作成方法について理解できる。 ・情報ネットワークの仕組みとメディアの発達について説明できる。 | | |